

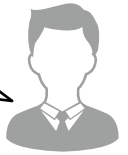


委員の主な「提言」を紹介します



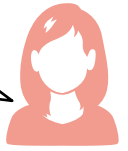
市民の利便性のために、行政サービスの窓口は松井田庁舎や谷津庁舎などに残すべき。デジタル技術を活用しながら今ある施設を有効活用してもらいたい。

なるべくお金をかけずに、外装などはこだわらないでシンプル、コンパクトな庁舎を作ってもらいたい。



少なくとも旧庁舎と中庁舎は耐震性能がとて低く、使いづらいので取り壊す。効率的な建物にするための機能など工夫しながら新しく建て替えるのがよい。

旧安中高校跡地が最適である(広場や事務スペースが広くでき、利便性が高まるため)。



子どもやみんなが遊べる公園や、イベントなどで多目的に使える広場やカフェなどのテナントスペース、多世代の市民が交流できるスペースがあるといい。



現在地や旧安中高校跡地の周辺は、西毛広域幹線道路が通り、ますます便利になる。商業施設や市内団体の事務所、美術館など多くのお客さんが来るように、それぞれの場所の跡地利用も含めて庁舎の立地を検討するのがよい。

子どもや高齢者、誰でも使いやすいようにバリアフリーに対応してほしい。間仕切りのないレイアウトにすると市役所組織の変更がしやすく、市民も窓口がわかりやすいため、利用しやすい。



市庁舎は防災拠点として市民の命を守る建物であるべき。災害時の防災広場や仮設テント、仮設住宅の設置でも使える広場を作るなど、防災機能を高めてほしい。

現在地で旧庁舎・中庁舎だけ建て替える(建設コストの削減のため)。

JR信越本線沿いなどに庁舎を作って新しいまちづくりをする(商業施設、住宅団地の新設が期待できるため)。



建て替えには合併特例債※を利用すべき。



現在地跡地は道の駅など誘客できる場所にする(西毛広域幹線道路沿いの立地を活かす、市の発展のため)。



※合併後のまちづくりのため、対象事業費の95%まで借入れでき、また、返済額の70%が普通交付税で措置される有利な借入れです